

渋沢翁と山口権三郎が目指したもの

公益財団法人山口育英奨学会 理事長 **山口敬太郎**

当 財団の資料館の展示物に「北越鐵道株式會社創立發企協議書」（明治

27年5月）があり、渋沢栄一と私の高祖父山口権三郎が連署している。2人にはどのような繋がりがあったのだろうか。渋沢翁は天保11年（1840）現在の埼玉県深谷市の豪農の家に生まれ、父から学問を学び尊攘思想の影響を受け一時京都で過ごした。その後徳川慶喜の家臣となり、1867年に將軍名代の随行人として訪欧しパリ万博を見学し欧州諸国の実情を見聞した。明治政府になると官僚に招かれたが大蔵省を辞して民間経済人として活躍している。一方、権三郎は天保9年に長岡市小国町の大庄屋格の家で生まれ、刈羽郡南条の三餘堂で学び忠君愛国の志を強くした。42歳で県會議員となり新潟県會の議長を四期務めた。明治22年（1889）パリ万博開催の年に1年かけて北米・欧州・アジア諸国を回って、欧米の先進文明を目の当たりにした。このように同時期に生まれた2人に共通していることは、学問を通してしっかりとした問題意識を持ち、先進諸国の近代

化を見聞した結果、文明開化と殖産興業の志を強くして明治期の様々な事業に携わったことだろう。渋沢翁とは比べべくもないが権三郎も石油・鉄道・金融・教育・電力・和紙の改良など多くの事業を発起している。まず志したのは鉄道の敷設であったが実現するまで十数年を要した。

石油会社の誕生

最初に実現したのは石油会社であった。明治18年ごろ権三郎が主唱して中越地方の有力者が集まり殖産興業を目的とする殖産協會が設立された。長岡近郊では古くから手掘りで石油が掘削されていた。これに着目して石油の事業化が提案され協議を経て多くが賛同して明治21年に日本石油会社が誕生した。翌年渡米した権三郎はアメリカから綱式削井機械を購入、出雲崎の海岸で我が国最初の機械掘りによる採油に成功した。その後会社は発展し、現在社名をENEOS株式会社に変更して総合エネルギー会社として存続している。

信越線の開通 東京と新潟を結ぶ

2人が連署した北越鐵道會社の設立までの経過を辿ると、産業を発達させるためには交通が重要と考えた権三郎は直江津から新潟に通じる鉄道を提唱し、明治15年地元（中越）の有力者の同意を得て「鐵道資本會社設立許可願」を県庁に提出した。しかし路線が決定されていないことで当局は認可しなかった。次いで明治17年、発起人を県下の有力者に広げて鐵道敷設願を政府に提出したが、鐵道は官で行うとして認められなかった。それでも諦めない権三郎は東京方面の実力者にも賛同を求めた。その一人が渋沢翁だった。渋沢栄一伝記資料によると『明治二十年三月先生及び山口権三郎等十七名のもの発起となり、北越鐵道敷設に關し、「越後国直江津より新潟迄鐵道敷設の儀に付願」を新潟県知事に差出したることあり』との記述がある。ようやく明治23年に帝國議會で敷設費の予算を付けるとの発案があったが、今度は県内で路線をめぐり上越線、海岸線（越後線）を

先にすべしとの意見に分かれたため否決された。その後政府の鐵道敷設の方針も変わり有力な民間会社なら許可することになった。ようやく明治27年冒頭に記した協議書が認可された。鐵道が米穀・石油などの運搬に必要なことを訴えている。設立まで紆余曲折を経たが明治29年北越鐵道會社が誕生し、東京と新潟が鐵道で結ばれた。権三郎は取締役に、渋沢翁は

監査役に就任した。これが現在の信越線である。何回も申請して認可されず起案から会社設立まで15年を要した。鐵道の重要性を訴え続けた信念と忍耐力を持っていたからこそ成し遂げられた事業と思う。

人を育てる 米百俵の精神

教育関係では渋沢翁は現存する多くの

町出身でこのような人物がいたことを知っていただければ幸いである。事業を起こすには資金が必要であり、それには多くの出資者を集めなければできない。幅広く多くの人たちを説得して賛同を得るだけの人望が求められるだろう。事業を成功させるためには強い意志と粘り強さも大切である。明治期において、先進諸国を見出し自国を強くするため産業を興し、人材を育成する、このような意欲を持った人物が各地にいたからこそ、我が国の近代化が進められたのだろう。偉大なる先駆者に敬意を表したい。



山口邸長屋門



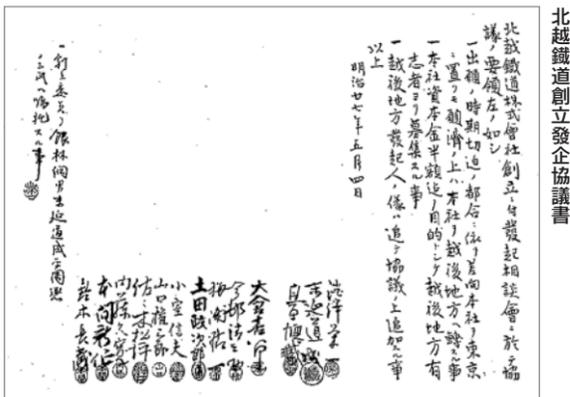
山口権三郎



長岡人物伝：パネル展



奨学生：夏の集い



北越鐵道創立發企協議書

↑山口権三郎 ↑渋沢翁



長岡銀行設立

▽山口敬太郎（やまぐち けいたろう） 1942年東京都生まれ。戦時中長岡に疎開し小学六年まで在住。東京大学経済学部卒業。日本石油（株）入社。ニューヨーク・ロンドン駐在、財務部長を経て日本石油基地（株）取締役、（株）NIPPON常勤監査役を歴任。2004年山口育英奨学会理事長に就任。